

社外取締役からのメッセージ



取締役 西岡 慶子

Q 新中期経営計画の策定に際して、率直に感じられたことがあればお聞かせください。

中期経営計画の策定にあたり、社外役員の意見に真摯に耳を傾け、丁寧に作り込む姿勢を感じました。計画の作成では、「骨子」の段階で社外役員にも説明会があり、そこで多くの意見が出されました。その意見をふまえて作成された「原案」が再度社外役員向けに説明され、それに対してまた意見を言う、という「やり取り」が最後の最後まで続きました。

一方で、中期経営計画の議論の過程で、言葉選びで気づくことがいくつかありました。取締役会でも同様なのですが、特に重要なメッセージについては最終的にIR等で開示することを意識し、一つひとつの言葉を大切に議論する必要性を感じています。社内では共通言語であるものの、社外では意味がよくわからない、あるいは意味を取り違えてしまうような文言があります。

また、今回、長期ビジョンを「デジタル&コンサルティングバンク」から「グリーン&コンサルバンクグループ」へと変更しました。賛否両論あるかもしれませんが、これは時代のキーワードである「デジタル」を捨てるということではなく、それは「コンサルティング」のなかに含め、前面に「グリーン」を掲げることで半歩先をいくことを意図しているのとらえています。

Q 百五銀行のダイバーシティについて、どのように評価されていますか？

女性も、シニアも、障がい者の方の雇用も、全てにしっかりとした方針で取り組んでいると思います。特にグループ会社の百五管理サービスでは、先進的な取り組みができています。

これまでグループ内では、女性の両立支援に注力してきま

したが、その環境が整ったことから、昨年度からキャリア支援に軸足を移しました。しかし、男性と違い、女性のロールモデルがいないと感じています。これを作っていくのはエネルギーがいると思いますが、今後展開されるキャリア支援により、性差や年齢に関係なく、能力の高い行員が、各部署で活躍し、そのなかから女性の部長や、さらには役員が誕生するのを期待しています。

Q 当行がサステナビリティに貢献していくうえで、お考えをお聞かせください。

2022年4月に百五銀行グループのサステナビリティに関する方針（環境・人権・投融資）を掲げました。2019年にはSDGs宣言を発信していますが、サステナビリティに関する方針も明文化したことにより、中心軸が定まり、商品開発などのよりどころになると考えています。こうした方針は今までなかったわけではなく、文化や風土、企業理念にその精神が盛り込まれていたものを明文化したことで、より理解が深まったのではないかと考えています。

また、ステークホルダーに対しても、百五銀行グループはこういう方針です、と明確に示すことができたと思います。

Q 百五銀行の強みと課題（弱み）について、どのようにお考えでしょうか？

三重県出身の松尾芭蕉は「不易流行」を説きました。不変の真理を示す「不易」は、当行においては「堅実経営」の理念を指し、また、世の変化に対応する「流行」は、当行ではコーポレートステートメントの「フロンティアバンキング」にあたると思っています。

少し気になるのは、この二つは両輪であるのに、「堅実経営」の方が目立ち、「フロンティアバンキング」が見えにくく、伝わりが弱いと感じます。

こうした点も踏まえて、社会への発信方法を工夫していく必要があるかもしれません。フロンティアバンキングによる新しい価値創造へのチャレンジを地道に伝えていくなかで、百五銀行グループの新しいステージを見つけられるのではと考えています。

